

# Okayama EU Letter

Vol. 9

岡山EU協会会報 2017. 9



総会の会場



理事会の様子



退任し花束を贈呈された萩原氏



新会長に選ばれた松田久氏



泉元会長の乾杯で始まった懇親会

## ★ 2017年度理事会・総会開催 新会長に松田久氏選ぶ ★

2017年度理事会が6月15日（木）、岡山市内の岡山国際ホテルで開かれ、任期満了に伴う役員改選の結果、会長の萩原邦章氏（岡山経済同友会顧問、萩原工業代表取締役会長）の後任に松田久氏（岡山経済同友会代表幹事、両備ホールディングス代表取締役社長）を選びました。萩原氏は筆頭理事に就任しました。（詳しくはP. 8）

講演要約（6月15日 岡山 EU 協会総会 記念講演 岡山国際ホテル）

# 「日本文化との出会い」一人のドイツ人の経験

講師 南山大学前学長 ミカエル・カルマノ氏



## ミカエル・カルマノ (Michael Calmano) 氏の紹介

カルマノ氏はドイツ・ヘッセン州リンブルク出身で、ドイツの神学校を卒業後、1970年に来日し74年、南山大学神学科を卒業。その後、米国で教育学を学び、78年、米国カトリック大学で教育学修士、83年、シカゴ大学で教育学博士を取得されました。84年から南山大学で教鞭をとり、90年助教授、96年教授、2008年学長に就任され、今年3月学長を退任、現在は神奈川県藤沢市の聖園（みその）女学院高等学校・中学校校長につかれています。著書に「出会い」（中経マイウェイ新書）があります。

## 出会い

私の名前からイタリア系だと思われる人も多いと思いますが、純粋なドイツ人です。

私は、70年の大阪万博の年に、名古屋の小牧空港に降り立ちました。理由があって天然痘の予防接種ができずに来日。医師の診断書を持っていましたが、入国審査場で止められてしまいました。しかし、審査官が南山大学卒業生と分かり、無事に入国できました。私は非常に日本らしい経験だと思いました。

しかし、実は、こうしたことは、日本だけではないのです。独で運転免許のために視力テストをした18歳の時のことです。このときも、検査官が同郷の人で、眼鏡なしの免許証が発行されました。

日本に来てからは、驚くことばかりでした。大阪万博では、日本人が音を立てて食べる、うどんの食べ方に驚き、修学旅行生の同じ服、髪型、同じ顔にも驚きました。いつも変わらないものとしての富士山、古代ギリシアの彫刻の影響を受けているとされている鎌倉の大仏。私にとっていずれも、素晴らしい出会いです。

## Japanese is impossible.

「日本語の勉強は難しいというレベルではなく、不可能です（“Japanese is not difficult, it's impossible.”）」と私は実感しています。このため、日本語学校で挫折した仲間もいたくらいです。大学で仏語、ラテン語など数々の外国語を学びましたが、そのやり方が日本語習得で、全く通用しませんでした。

ラテン語もドイツ語も論理的思考の言語だとされて

います。これに対して、日本語は人称代名詞がないことなど曖昧と言われています。ところが、細かい表現が多いことにも閉口します。女子高生語の存在も意外でした。

反対に、日本人が独語を学ぶのもかなり難しいでしょう。独語で、1時半は「2時まで30分 (halb zwei)」、1時45分は「2時まで15分 (drei Viertel zwei)」と表現します。これらの例から、日本人が独語を学ぶことも難しいと思いませんか。

## “Living in a cage” と “thinking outside the box”

生まれた文化や教育は、人を縛るものです。私は、これも1つの檻だと考えています。これを象徴的に、“Living in a cage” と表現してみたいと思います。

12歳の時に、詩「豹」を読みました。この詩には「目前に千本の格子がならぶとも、千本の向こうには世界はないと変わらない」とあります。

“thinking outside the box” として、殻を破って、外を眺めることの重要性も申し上げたいと思います。“Living in a cage” とは、対照的な概念です。

外国は、自分に害を与える敵で、アイデンティティを脅かされるという存在ととらえられがちです。欧州の中の独、アジアの中の日本が陥りやすい考え方です。

Afd (Alternative für Deutschland) や宗教的な考え方で Pegida (Patriotische Europäer gegen die Islamisierung des Abendlandes)、Front National (Marine Le Pen)、America First (Donald Trump) はいずれも、檻を作る考え方です。

仏国人は、独国人を Le Boche (危ない独国人) と、

米国人は独国人を Krauts と言います。独国人は仏国人を frog(カエルの足を食べた)と言います。過去に、相手を互いにけなし合ってきたことが伺えます。

ところがこうしたことは、私にはまったく関係のないことでした。64年にボーイスカウトとして、仏のリモージュに行って、楽しんだ思い出があります。61年から両国はパスポートなしで行き来できるようになっていたからです。

仏のド・ゴールと独のキージンガー首相が、今の欧州統合の基礎をつくりました。

## Diversity + Inclusiveness

カトリック教会のフランシスコ教皇は、環境問題について回勅“Laudato si”を出しました。

宗教以外に口を出すのかと批判もありました。しかし、“thinking outside the box”を実践したと考えてみましょう。

「レッドラインを超えること」は、ある意味で、他人の側に入ることであり、他人を理解するには必要なことだともいえます。

パックス・ロマーナ (Pax Romana) を誇ったローマ帝国はただ、武力で全てを手に入れただけでした。真の国際化を進めるには、Diversity (多様性) と Inclusiveness (仲間としてみる) が求められます。「あらしのよるに」の絵本に見られる概念です。国際連合が強調する、「あなたの世界です (It's your world.)」にも通じるものがあります。

昔から、“Good Fences Make Good neighbors”という言葉があります。国境を封鎖するための政治キャンペーンの壁は決して、良いお隣りをつくりません。タリバンが歴史的な仏像を壊した事件も排除の考え方です。

以前、学生とともに、アジアカトリック大会 (アジアパシフィック大学連盟) で東南アジア諸国を訪れたとき、“Harmony is all we need. (調和こそ我々に必要なこと)”をテーマとしました。このとき、モスクも訪ねるなどイスラム教徒やヒンズー教徒であっても、話せば通じることを実感しました。

## “Diversity and Inclusiveness is difficult but not impossible.”

大江健三郎は自らの著書『自分の木の下で』の中で、「外国になおして話したり、…いつもより客観的に見ることができる」としています。

聖書にも「狼と小羊は共に草をはみ／…」(イザヤ書65章25節)というくだりがあります。これにならい私は、岐阜県で「今日をどう生きる」として、正眼寺老師 (山川宗玄氏) と対談するなどカトリックと禅宗との対話を試みました。

南山大学ドイツ語劇は2011年、日独交流150周年記念として、Ensemble “Teatro affetto” (Essen) と共同演劇プロジェクトを実施しました。劇を通して、共通の概念を見出しました。

すなわち、独語で“...so mag der Wind sie in das Nichts entführen... (風が、愛する者たちを無の世界へ連れさろうとも)”は、日本の『詞歌集 (崇徳院)』の「瀬を早み 岩にせかる 滝川の われても末に逢はむとぞ思ふ」であるというものです。

檻を出ない方が、楽だという考えもあるのは確かです。日本文化と出会った私の経験から、“Diversity and Inclusiveness is difficult but not impossible. (多様性を受け入れ、仲間になることは難しいが、不可能ではないこと)”を学びました。

翻って、日本はアジアでどうあるべきでしょうか。



〔第1号議案〕

# 2016年度 事業報告

## 1、欧州の経済・文化事情についての勉強会「EU 講座」を充実する

日本では7月の参院選挙に向け選挙権年齢が20歳から18歳に引き下げられたが、日本の先を行く欧州諸国ではどのような状況にあり、どんな議論がなされているか—を知るため5月20日、岡山市内のホテルで、小串聡彦慶應義塾大学 EUSI 研究員を招いて第17回 EU 講座を開いた。欧州は日本の何歩も先を歩んでおり、18歳にとどまらず、16歳選挙の導入も進んでおり、オーストリアは国政及び地方選挙で実施、また、ドイツ、スイス、英国、ノルウェーは特定の州および市町村選挙で実施していることなどが分かった。

## 2、「EU Letter」の継続発行

年1回発行、第8巻まで来た。本年度も6月理事会・総会での決定事項、総会の記念講演の要旨、ホームページに掲載したイベントレポートなどを取りまとめて発行した。

## 3、岡山 EU 協会のホームページの充実

岡山 EU 協会内外への情報発信強化のため、2010年5月に岡山県立大学情報工学部、デザイン学部の教授、学生の協力を得

て立ち上げ、2014年にリニューアルした。会長あいさつ、協会会則などを常時掲載しているほか、理事会・総会、EU 講座の開催日のお知らせなどをイベントカレンダーとして掲載、その結果をイベントレポートとして報告している。他の EU 協会ともリンクを張り、それぞれの活動状況が分かるようにしている。

## 4、会員の増強を図る

平成28年4月は法人60、個人55でスタートし途中、複数の入退会があり、平成29年3月末は法人62、個人53となった。会員の増強はその会の元気を測るバロメーターといえ今後も会員拡張に励む。また、会員への情報提供はFAXで取り組んでいる。

## 5、EU との友好促進事業の実施

岡山大学での講演のため来岡中のブドラ駐日欧州連合大使と6月、萩原邦章会長、松田久理事が初会合、英国の EU 離脱問題などについて意見交換した。この後、夢二郷土美術館も訪れた。10月にはデイビッド・ウォレン前駐日英国大使を招いて講演会を開催、2月には萩原、松田久、松田正己氏が英国総領事に就任したセーラ・ウテン氏と会談するなど EU と友好関係を深めることができたといえる。

〔第2号議案〕

# 2016年度 決算報告

(2016. 4. 1 ~ 2017. 3. 31)

### 収支決算

収入総額	¥2,944,820
支出総額	¥1,634,169
差引残高	¥1,310,651 (2017年度に繰り越し)

#### 収入の部

科目	予算額	決算額	差引額	摘要
年会費収入	¥1,560,000	¥1,510,000	¥-50,000	法人会費 @20,000×63、個人会費 @5,000×50
参加会費	¥595,000	¥336,000	¥-259,000	総会 @7,000×26 = 182,000円 第17回EU講座 @7,000×15 = 105,000円 ウォレン卿との懇談会 @7,000×7人 = 49,000円
事業収入	¥0	¥0	¥0	
その他雑収入	¥200	¥23	¥-117	普通預金利息収入
前年度繰越金	¥1,098,797	¥1,098,797	¥0	
合計	¥3,253,997	¥2,944,820	¥-309,177	

#### 支出の部

科目	予算額	決算額	差引額	摘要
総会費	¥1,000,000	¥758,830	¥-241,170	・6/9総会会場・懇親会 539,460円 ・通訳費用 65,448円 ・講師費用 153,922円
事業費	¥750,000	¥609,040	¥-140,960	・第17回 EU 講座費用 5/20 345,294円 ・10/10特別講演会 263,746円
広報費	¥150,000	¥163,050	¥13,050	・ホームページ維持費用 5,884円 ・会報 (EU letter) 8号発行 157,166円
事務諸費	¥100,000	¥103,249	¥3,249	・通信費 37,324円 ・消耗品費 3,240円 ・その他雑費 324円 ・出張旅費 35,880円 ・セーラ・ウテン氏との会食費用
特別費	¥10,000	¥0	¥-10,000	
合計	¥2,010,000	¥1,634,169	¥-375,831	

### 会計監査報告

2016年度の会計について監査を執行し、収入・支出ともに正確に記帳整理されており、帳簿・証拠書類の保管は完全であることを認める。

2017年6月6日

監事 吉澤 威人  
監事 岡崎 彬

## 〔第3号議案〕

## 役員選任の件

名誉会長	岡山経済同友会顧問	越宗 孝昌 (再任)
会長	岡山経済同友会代表幹事	松田 久 (新任)
副会長	駐日欧州連合代表部広報部長	フリオ・アリアス (交代)
副会長	岡山大学学長	榎野 博史 (交代)
副会長	岡山県国際経済交流協会会長	宮長 雅人 (再任)
副会長	岡山県経営者協会会長	野崎 泰彦 (交代)
顧問	岡山県知事	伊原木隆太 (再任)
顧問	駐日欧州連合代表部大使	ヴィオレル・イステイチョアアイア・ブドウラ (再任)
理事	岡山経済同友会顧問	萩原 邦章 (再任)
理事	岡山経済同友会顧問	泉 史博 (再任)
理事	岡山経済同友会顧問	中島 基善 (再任)
理事	岡山県経済団体連絡協議会座長	中島 博 (再任)
理事	岡山経済同友会常任幹事	古市 大藏 (再任)
理事	岡山県中小企業団体中央会会長	晝田 眞三 (交代)
理事	大学コンソーシアム岡山会長	片岡 洋行 (再任)
理事	岡山県文化連盟会長	若林 昭吾 (再任)
理事	福武教育文化振興財団代表理事・副理事長	松浦 俊明 (交代)
理事	岡山市長	大森 雅夫 (再任)
理事	倉敷市長	伊東 香織 (再任)
理事	山陽新聞社社長	松田 正己 (再任)
理事	山陽放送会長	原 憲一 (再任)
理事	岡山放送社長	中静敬一郎 (再任)
理事	テレビせとうち社長	川端 英男 (再任)
監事	岡山県商工会議所連合会会長	岡崎 彬 (再任)
監事	岡山県商工会連合会会長	吉澤 威人 (再任)

## 〔第4号議案〕

## 2017年度 事業計画

- 1、欧州の経済・文化を深く知るため「EU 講座」を複数回開催する
- 2、会報「EU Letter」の継続発行
- 3、岡山 EU 協会のホームページの充実
- 4、会員の増強を図る
- 5、EU との友好促進事業の実施・共催

## 〔第5号議案〕

## 2017年度 収支予算書

(2017年4月1日～2018年3月31日)

## 収入の部

科目	2016実績	2017予算	差引額	摘要
年会費収入	¥1,510,000	¥1,600,000	¥90,000	@20,000×65 (2法人増強) @5,000×60 (4人増強)
参加会費	¥336,000	¥750,000	¥414,000	総会参加会費@7,000×25 EU 講座参加会費 (4回開催予定)
事業収入	¥0	¥0	¥0	EU フィルムデーズ開催なし
その他雑収入	¥23	¥50	¥27	預金利息
前年度繰越金	¥1,098,797	¥1,310,651	¥211,854	
合計	¥2,944,820	¥3,660,701	¥715,881	

## 支出の部

科目	2016実績	2017予算	差引額	摘要
総会費	¥758,830	¥1,000,000	¥241,170	総会費用 (会場、懇親会、講師謝礼等)
事業費	¥609,040	¥1,000,000	¥390,960	EU 講座費用約250,000円×4回
広報費	¥163,050	¥170,000	¥6,950	会報発行、HP 維持更新費用
事務諸費	¥76,768	¥100,000	¥23,232	通信費、出張旅費、消耗品費
予備費	¥26,481	¥50,000	¥23,519	
次年度繰越	¥1,310,651	¥1,340,701	¥30,050	
合計	¥2,944,820	¥3,660,701	¥715,881	



## 前駐日英国大使による講演会

岡山EU協会は、は10月10日（月）、就実大学（岡山市中区西河原）と共催で、デイビッド・ウォレン前駐日英国大使を講師に招き、「英国のEU離脱と世界経済のゆくえ」をテーマにしたフォーラムを同大学110周年記念ホールで開いた。



萩原会長が「37年ぶりのポンド安、資源株の上昇など英国とEUの問題は日本にも影響がある。一緒に勉強したい」と挨拶し開会、「英国のEU離脱の背景と今後の展開」と題した基調講演でウォレン氏は、低所得者ほど離脱を選ぶ傾向が高かったとする調査結果にふれ「多くの有権者が現在の世界経済の制度に無関心で、政治エリートは信用できないと感じていた」と説明。

「政治的・経済的危機を悪化させる保護主義的障壁を導入せずに、苦しみ、怒っている人々を救う方法を世界中の政治家が探さなければならない」と訴えた。

続いて日本銀行岡山支店の福地慶太支店長、就実大学の杉山慎策副学長兼経営学部長とウォレン氏による鼎談が行われ、福地支店長は「格差が拡大し、政治への不満のはげ口として国民投票が使われた側面がある」と指摘。杉山副学長は「EU発足以降、欧州では国同士の戦争が起きていない。EU発足の原点に戻るべきだ」と強調した。ウォレン氏は「今の状況でEUが解体することはないだろう。EUが英国を求めている以上に、英国はEUを必要としている」と見通した。閉会の辞で宮長雅人岡山EU協会副会長は「ポピュリズムの台頭、金融資本主義のあり方といった難題を政治家任せにせず、私たち国民が意識し考えることが重要だ」と述べた。



## EU協会全国総会

EU協会の2016年全国総会が12月8日（木）、東京都港区南麻布のヨーロッパハウス（駐日欧州連合代表部）で開催された。着任2カ月のフリオ広報部長のほか、ヴィオレル・イステイチョア・ブドゥラ大使が多忙なスケジュールの中出席され、毎月EU加盟の各国大使とEU代表部との会合を開くという、29の旗のはためく部屋でスピーチを行い、今後ますます経済的、政治的にはもちろん多角的に日-EU関係の価値観の共有が大切であることを強調された。続く昼食会では、英国のEU離脱やアメリカの大統領選、移民問題にも触れ、オフレコな話も飛び出すなど、大変有意義な交流が持てた。また大使は、EUへの理解を深めてもらうために、各地からの招聘には極力出向く旨を約束してくれた。

その後、全国の14のEU協会（3協会は欠席）が16年度の活動状況や



今後の予定などを報告しあった。岡山からは事務局員の太田美登里が出席し、今年は母体である岡山経済同友会が全国セミナーを担当したためにEU協会の活動がおろそかになったが、前言通り、ブドゥラ大使、セーラ・ウテン前広報部長とも来岡の機会に講演していただいたことなどを報告し、来年度はもう少し積極的な活動をするために、各地で好評だった講師やイベントの紹介、EU フィルムデーズの地方での開催をお願いした。

## 英国総領事セーラ・ウテン氏と懇談

在大阪英国総領事館のセーラ・ウテン総領事が2月8日(水)に来岡し、岡山EU協会の萩原邦章会長、(一社)岡山経済同友会の松田久、松田正己両代表幹事らと ANA クラウンプラザホテル岡山で懇談した。

ウテン氏は、駐日EU代表部広報部長だった昨年3月に、岡山EU協会の講座で講師を務め、岡山経済同友会とつながりができた。今回は、英国総領事就任(昨年10月)のあいさつで岡山を再訪した。

ウテン氏は、英国総領事館が愛知県から沖縄県までの西日本全域を管轄していると説明し、「各地域と英国の関係を深めたい。岡山の皆さんの意見も聞かせてもらいたい」とあいさつ。英国がAI(人工知能)をはじめとする先端技術の研究開発を推進していることなどを紹介し、「英国進出を検討している企業があれば、ぜひ情報提供を」と呼び掛けた。萩原会長や両代表幹事は「互いに相手の国をもっと知り、成熟した関係を築きたい」などと応じた。

英国のEU離脱やトランプ米大統領の就任といった世界情勢についても意見交換した。



## 第18回EU講座 「労働者の理想郷クレスピダッダ(イタリア)と倉敷」

第18回EU講座が5月26日(金)、倉敷市の吉井旅館で開かれた。玉島信用金庫の宅和博彦常勤理事が「労働者の理想郷クレスピダッダと倉敷」と題し、産業革命期に綿織物の製造で栄え、ユネスコの世界遺産(文化遺産)に登録されているイタリアの企業村・クレスピダッダを紹介し、同じく繊維産業で栄えた倉敷との共通点を解説。会員ら約25人が聞いた。

クレスピダッダはミラノの北東約35キロにあり、クリストフォロとシルビオのクレスピ家親子二代が自身の綿織物工場で働く人たちのために整備、統治した。1878年、アツダ川のほとりの所有地を切り開いて工場を建設。動力源として当時としては珍しい水力発電所を設けて品質、生産効率ともに向上させ、欧州全域に顧客を広げた。労働災害防止マニュアルを策定し、菜園付き一戸建て住宅や診療所、学校、劇場を整備するなど福利厚生も充実させた。しかし、世界恐慌のあおりで経営が悪化。ムッソリーニの画策もあって工場を明け渡した。工場は閉鎖されたが、村には現在も当時の工員の子孫が住んでいるという。世界遺産には1995年に登録された。

宅和氏はこうした歴史を振り返り、倉敷の大原家との共通点に関し、ともに綿紡績で発展し、医療機関を整備したり、労働者の安全確保や救貧事業、絵画収集などを手掛けたりした、と説明。その上で「シルビオも大





原孫三郎も企業家による救貧事業や労働環境の改善には限界があると感じ、シルビオは国政に働きかけようとした一方、孫三郎は学術的な研究を行い、問題の根本的解決を図ろうとした」と締めくくった。

聴講した大原美術館の大原あかね理事長も、「(孫三郎が紡績業に着手した当時)既に倉敷がまちだったことがクレスピダッダとの大きな違い。倉敷はまちがしっかりしていたので、つくったものが今も残り、いろいろな人が関わっている。クレスピダッダは村が完結していたため、存続させるのは難しかった」など

と述べた。

この後、懇親会もあり、ワイン輸入販売・フジトレーディング(倉敷市)の森田富士子代表がセレクトしたポルトガル産ワインと、同旅館の料理人が手掛けたイタリアンに舌鼓を打ち、ロシア出身のダンスインストラクター・ナタリヤさん＝岡山市在住＝らによるベリーダンスを楽しんだ。



## 2017年度理事会・総会

岡山EU協会は、6月15日(木)、2017年度理事会・総会を岡山市中区の岡山国際ホテルで開き、任期満了に伴う萩原邦章会長(岡山経済同友会顧問、萩原工業会長)の後任に、松田久氏(同同友会代表幹事、両備ホールディングス社長)を選んだ。任期は2年。萩原氏は筆頭理事に就任した。

まず理事会で、役員改選を行い、新会長を選任。続いて開いた総会では、会員約40人が出席し(委任状を含むと94名)、一部の副会長、理事の交代を承認した。また、16年度の事業報告と収支計算書を承認。17年度事業計画として、会員あるいは外部識者を講師に招いて欧州の経済・



文化を学ぶ「EU講座」を複数回開催▽会報「EU Letter」の継続発行▽ホームページの充実▽会員増強▽EUとの友好促進事業—に取り組むことと、同年度収支予算を決めた。(P. 4～P. 5参照)

記念講演に移り、南山大学前学長のミカエル・カルマノ氏(ドイツ出身)が「日本文化との出会い～一人のドイツ人の経験」と題して講演。懇親会も開き、バイオリン演奏を聴きながら歓談した。

(講演要約はP. 2)

### 第19回EU講座のご案内

#### 16世紀と21世紀のシェイクスピア： 『ベニスの商人』を懸け橋として

- 日時 2017年10月20日(金)  
17:00～19:30頃
  - 会場 岡山プラザホテル
  - 講師 松浦芙佐子  
岡山商科大学 経営学部商学科准教授
- ※会員の皆様のご参加をお待ちしております。

### 岡山EU協会 事務局

〒700-0985 岡山市北区厚生町3-1-15  
岡山商工会議所ビル5階

T E L : 086-222-0051  
F A X : 086-222-3920  
Eメール : info@okayama-eu.jp  
U R L : http://okayama-eu.jp

担 当 : 金森 大原 太田